

羅臼沖海上におけるカムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume* の連続確認記録

宮本 昌幸

082-0061 北海道河西郡芽室町西1条南2丁目1-13

A Record of Japanese Murrelet *Synthliboramphus wumizusume* Off the Coast of Rausu, Shiretoko Peninsula

MIYAMOTO Masayuki

1-13 W1S2, Memuro, Hokkaido 082-0061, Japan. miyamoto@farnorthphoto.com

はじめに

カムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume* は日本列島ならびに韓国周辺の暖海域で繁殖し、ウミスズメ類としては最も南に分布する種である。国内での繁殖地としては北限は石川県の七ツ島、南限は伊豆諸島の鳥島とされている。非繁殖期の北限については不明な部分が多く、個体数は5,000羽、多くとも10,000羽程度とされている（環境省2002）。また国指定の天然記念物であり、IUCNおよび環境省のレッドリストでともにVUと判定されている絶滅が危惧される種である（IUCN. *Synthliboramphus wumizusume*: IUCN Red List of Threatened Species Version 2010.4. IUCN, <http://www.iucnredlist.org/apps/redlist/details/144291/>. 2010年12月12日閲覧; 環境省自然環境局野生生物課. レッドリスト鳥類. 環境省, http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=8929&chou_id=7849. 2010年12月12日閲覧).

成鳥は、全長22–26.5 cmで、繁殖羽では頭部から喉は黒色、頭頂には黒色の冠羽があり、目の前方から後頭部は白い。体の上背は黒色、背から肩羽、翼上面は暗灰色。非繁殖羽では、上面は暗灰色で頭頂部は暗色。冠羽を欠く個体もある。喉から下面、目の前後は白色である（箕輪2007）。

北海道の記録としては函館沖、釧路沖、浜中町などであるが（片岡1994; 藤巻2010; 日本野鳥の会十勝支部2010）、羅臼町が位置する知床半島での記録はない（田沢1990; 斜里町立知床博物館1999）。

筆者は2009年および2010年の8月上旬に羅臼沖海上でカムリウミスズメの非繁殖羽を連続観察した。知床半島でのカムリウミスズメの観察及び撮影は初記録であると思われるので、ここに報告する。

観察記録

観察したのは2009年8月4日、2010年8月5日および8月6日で、いずれも船上からの観察であった。船は羅臼町を拠点に羅臼沖でホエールウォッチングを目的とした知床ネイチャークルーズ所属の「エバーグリーン号」（19t、長谷川正人船長）である。

1. 2009年8月4日

船は13時に羅臼漁港を出港し、マッコウクジラなどの海獣類を目視で捜索しながら約15 kt（約28 km/h）で約12 km沖合いに出た。その後、約10 kt（約19 km/h）で日露中間線に沿って北東方向に進んだ。天候は曇り、視界は5 km程度であった。

14時40分頃、陸地から約17 km沖合いの海上を



図1. 2009年8月4日に観察されたカムリウミスズメ.



図2. 2010年8月5日に観察されたカムリウミスズメ.

約10 kt (約19 km/h) で航行中、左舷側約300 m 陸地側の海上に1羽で遊泳しているウミスズメ類を確認し、撮影を行った (図1)。現地にて写真で判別するには遠く、また波による揺れもありその場で種の特定にはいたらなかったため、目視での行動観察を行った。この個体は、ほぼ同位置で2度潜水を行ったが餌の有無は確認できなかった。その後、船の進行と共に後方に去り見失った。

23分00.8秒 (世界測地系) の地点において (図3)、1羽が8月5日と同様に海上に浮かんでいるのを確認し、撮影した (図4)。この個体は3度潜水と浮上を繰り返し、浮上ごとに少しずつ船から離れていった。この間に捕食に成功した様子は見られなかった。その後、船が海獣類などの探索のため元のコースに戻ったため見失った。

2. 2010年8月5日

船は12時30分に羅臼漁港を出港し、マッコウクジラなどの海獣類を目視で捜索しながら約15 kt (約28 km/h) で約12 km 沖合いに出た。その後、約10 kt (約19 km/h) で日露中間線に沿って北東方向に進んだ。天候は晴れ、視界は5 km 以上であった。

13時05分頃、左舷側約100 m 陸地側の海上に2羽が少し距離を置きながら並んで海上に浮かんでいるのを確認し、うち1羽を撮影した (図2)。しかし、発見が遅れたことにより船はそのままのスピードを保ったまま通過したため詳細な観察はできなかった。

3. 2010年8月6日

船は9時に羅臼漁港を出港し、前日と同様のコース、速度で海獣類を目視で捜索しながら航行した。天候は晴れ、視界は5 km 以上であった。

9時38分頃、北緯44度01分59.3秒、東経145度

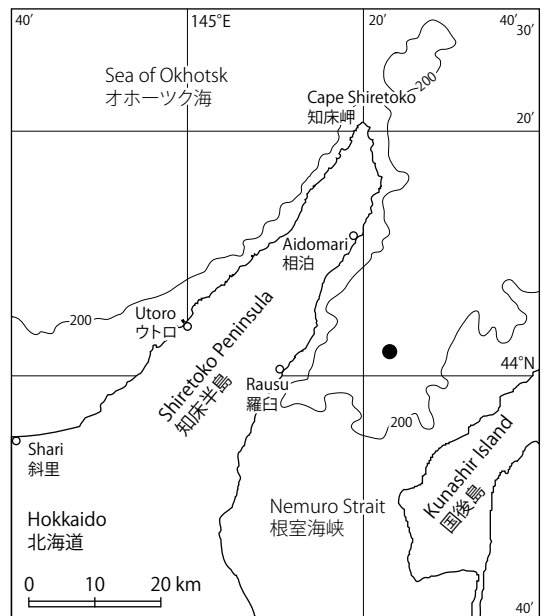


図3. 2010年8月6日のカムリウミスズメ観察地点.

4. 写真から得られた特徴

2009年に観察および撮影した個体には下記のような特徴があった。

- くちばしがグレー色で比較的短い
- 上面は暗灰色で頭頂部は暗色で一部白い部分があり、喉から下面、目の前後は白色
- 冠羽は無く、目の前方にまで大きく白色部が入り込んでいる
- 肩羽の白色斑がない

また2010年8月6日に確認した個体には上記の特徴に加え、冠羽があった。

考察

カンムリウミスズメと大きさや色彩の似るウミスズメ科鳥類の種として、北海道沿岸で比較的よく観察されるウミスズメ *Synthliboramphus antiquus*、知床半島でも確認されているマダラウミスズメ(アジアタイプ) *Brachyramphus marmoratus perdix*、またマダラウミスズメ(基亜種) *B. marmoratus marmoratus*が挙げられる。

しかし、Brazil (2009) の記載に従えばウミスズメは嘴が白く目の前方まで黒いことから、マダラウミスズメ(アジアタイプ)の冬羽は目の前方部への白色部の入り込みが小さく、嘴が長く細く、

図4. 2010年8月6日に観察されたカンムリウミスズメ。



肩羽に白のラインが出ることから、またマダラウミスズメ（基亜種）は目の前方部の白色部が大きい、肩羽の白い部分が目立つことから観察個体と異なっていた。

以上のことからいずれの観察個体もカムリウミスズメの非繁殖羽と同定した。

この結果から、カムリウミスズメは非繁殖期である8月頃には北海道沿岸にまで北上し、一部は知床半島沿岸まで移動している可能性が示唆された。今後も観察を継続し、カムリウミスズメが常態的に羅臼沖を利用しているかどうかを調査していきたい。

謝辞

本報をまとめるにあたり次の方々に協力をいただいた。有限会社知床ネーチャークルーズの長谷川正人氏、シーライフウオッチの佐藤晴子氏、資料提供や助言を頂いた知床海鳥研究会の福田佳弘氏、日本野鳥の会十勝の千嶋淳氏、斜里町立知床博物館の中川元館長、また知床博物館の内田暁友

学芸員には地図作成などでご協力いただいた。記して厚くお礼申し上げる。

引用文献

- Brazil M. 2009. Birds of east Asia: China, Taiwan, Korea, Japan, and Russia. 528 pp. Princeton University Press, Princeton.
- 藤巻裕蔵. 2010. 北海道鳥類目録(改訂3版). 74 pp. 極東鳥類研究会, 美唄
- 片岡義廣. 1994. 浜中町の鳥. 35 pp. 浜中町教育委員会生涯学習課, 浜中.
- 箕輪義隆. 2007. 海鳥識別ハンドブック. 80 pp. 文一総合出版, 東京.
- 日本野鳥の会十勝支部. 2010. 北海道東部鳥類目録. 165 pp. 日本野鳥の会十勝支部, 帯広.
- 斜里町立知床博物館(編). 知床の鳥類. しれとこライブラリー 1. 230 pp. 北海道新聞社, 札幌.
- 田沢道広. 1990. 知床半島羅臼町管内の鳥類リスト. 知床博物館研究報告 11: 21-28.